

プロスポーツ振興「栃木モデル」構築に関する研究会

第2回 【会議レポート】

日時：2014年4月23日（水）16：00～18：00

場所：作新学院大学 中央研究棟 2F 第1会議室

テーマ：4 プロスポーツクラブの現状と課題

1. 趣旨

第二回の研究会は「4 プロスポーツクラブの現状と課題」をテーマに、事前研究会（研究会メンバーのみによるインナー会議、昨年11月から7回にわたり実施）の成果を報告する形で実施された。本研究会では「プロスポーツクラブの自律的発展」と「クラブが有する社会的機能のさらなる発露」を目的に活動が展開されていく。そこで、そうした諸活動を効率的に達成するために、今回の会議ではそのスタート地点となる現状認識の共有化を図ることを主たる目的とした。

今回の会議は「①各クラブによる報告」と「②ディスカッション」の二部構成で実施する予定であったが、前者を重要視して多くの時間を割いたために後者の時間が十分に確保できなかった。そこで以下では、各クラブからの報告の要点を整理したのち、今後の展望（議論の焦点）を示すこととする。

2. 報告：各クラブの現状と課題



①田蔵大地氏（栃木サッカークラブ 事業サービス本部長）

サッカーJリーグ（J2）で活躍する栃木サッカークラブの田蔵氏は、クラブのチケット収入やスポンサー収入が年々増加傾向にある現状を紹介した。そして、今後の重要課題は、Jリーグが導入した「クラブライセンス制度」への対応（債務超過の解消など）だと語り、その実現に向けてさらに努力を積みあげていく。そこで注力するのが地元選手の育成やサポーターの拡大といった地元志向の活動であるという。

②藤本光正氏（栃木リンクスポーツエンターテイメント 取締役）

プロバスケットボールクラブのリンク栃木ブレックスは、平成21年度から黒字経営が続いていたところ、24年度に一度赤字に転落するものの、また25年度には黒字に戻すことができた。取締役の藤本氏は、広告収入が約半分を占める中で、それに続くチケット収入を安定化させるために「集客」を重要課題として位置づける。また、エンターテイメント性の高い空間を実現するための多目的アリーナの必要性を指摘し、そうした「施設面」の課題にも着手していきたいと述べた。



③土田英二氏（栃木ユナイテッド 取締役）

プロアイスホッケークラブである日光栃木アイスバックスの土田氏は、所属するアジアリーグは、試合数の少なさ、遠征費負担の大きさなど、収益をあげにくい構造になっているという。そうしたなかで重要な課題と位置づけるのが、「集客の増加」と「地域に根差したクラブづくり」である。前者については様々なキャンペーンを実施し、そして、後者については地元（日光）の来場者数を増加するため活動を展開するなど、様々な経営努力をしていると述べた。

④廣瀬佳正氏（サイクルスポーツマネージメント㈱ GM）

自転車ロードレースクラブである宇都宮ブリッツェンの廣瀬氏は、公道で実施される試合が多いという競技特性によって、他のプロクラブと収入構成が異なることを指摘した。ブリッツェンでは、スポンサー収入やグッズ収入については他のクラブと共通するものの、チケット収入が存在しないことが大きく異なる。そこで、それに代わる収入を獲得する必要があるが、そこで重要視するのがサイクルイベントであり、その企画を通じて一般の人々に自転車競技の魅力を伝えながら、その参加費で一定の収益を確保していきたいという。



3. 今後の論点

インナー研究会及び今回までのオープン研究会を通じて目指してきたのは、「①4プロの現況と課題についての情報共有」と「②産官学と4プロの連携に向けた共通課題の模索」といえる。①については、各クラブが置かれた現況を整理し、今後の研究会の効率的な推進に向けて基礎的なデータをまとめるうえで重要な課題である。この点については、これまでの研究会で行われた議論の成果物として「4スポーツクラブ比較表」が提示され、一定の情報共有がなされた。今後の課題は②の部分について、参加メンバーが認識を共有化していくことである。組織間での協働を有効に進めるためには、諸組織の間で共通した課題を抽出し、その解決の必要性について当事者間で認識を深く共有化していくことが求められる。今回の研究会においては、4プロスポーツクラブ間で共通する課題が暫定的に示されたが（図1）、「プロスポーツの自立的発展」と「プロスポーツの社会性の発揮」という本研究会の目的を達成するためには、こうした議論を敷衍し、産官学の諸アクター間で共通する課題を明示化しながら、協働の必要性や可能性についてさらに議論していく必要がある。そうした議論の深まりによって「なぜ連携するのか」「何を協力するのか」といった視点から産官学の協働の方向性が浮き彫りになってくるのではないだろうか。今後の展開に期待する。

（図1）4クラブに共通する課題とは

総合討論：
さらなる自立に向けた経営課題とは？

4クラブに共通する課題とは？

- ①集客 → 新規顧客の取り込み
- ②施設 → 施設の充実
- ③人材 → ・選手：良質な選手の獲得（県内出身、若手、知名度...）
・スタッフ：人材育成（専門性、生産性の向上）
- ④資金 → ・チケット収入の増加
・多様な収入源の確保
- ⑤その他 → ・リーグ環境の改善
・スポーツ愛好者の増加

関根正敏(作新学院大学)



文責：関根正敏（作新学院大学 講師）